TOREX IR REPORT VOL.8

第23期 報告書 2017.4.1 > 2018.3.31

巻頭特集

おかげさまで東証一部に上場しました

CONTENTS

P1 ごあいさつ
P3 培われたトレックスの「強み」
P5 トップメッセージ
P8 トレックスのCSR
P9 連結財務ハイライト
P10 会社情報・株式情報
裏表紙 About トレックス Vol.8 フェニテック創立50周年記念行事で新しいロゴをお披露目

TOREX

トレックス・セミコンダクター

証券コード 6616

ごあいさつ

株主の皆様におかれましては、平素より当社グループ事業へのご理解とともに多大なご支援を賜り、誠にありがとうございます。

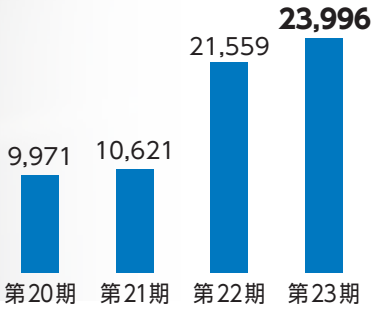
おかげさまで当社株式は、2018年3月22日付で東京証券取引所市場第二部から同市場第一部銘柄に指定されました。これもひとえに株主の皆様の厚いご支援の賜物と、心より御礼申し上げます。

第23期（2018年3月期）の連結業績は、フェニテックが全体の伸びを牽引し、売上高239億96百万円（前期比11.3％増）、営業利益22億12百万円（同76.8％増）、経常利益19億98百万円（同120.6％増）、親会社株主に帰属する当期純利益9億2百万円（同69.2％減）と、期初の予想を大きく上回りました。

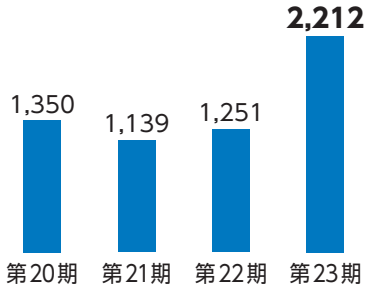
第24期（2019年3月期）からは、3ヵ年にわたる中期経営計画を始動しました。当社グループは、本計画の着実な遂行を通じて、フェニテックとのシナジーを発揮しながら、重点市場においてシェアを拡げ、3年後の飛躍を実現してまいります。

代表取締役 社長執行役員 **芝宮 孝司**

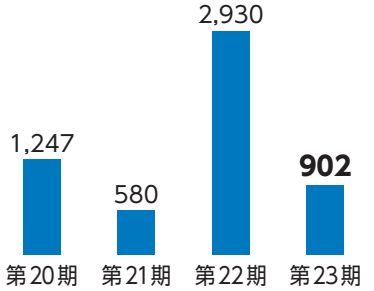
売上高
（単位：百万円）



営業利益
（単位：百万円）



親会社株主に帰属する当期純利益
（単位：百万円）



おかげさまで、
東証一部に上場しました。

電源IC一筋、省電力・小型化の技術で
エレクトロニクス産業技術の発展に貢献してきました。

携帯型カセットプレーヤー
ニッケル水素二次電池を使用した携帯型カセットプレーヤーでXC61ANシリーズが採用され、プレーヤーがギリギリ稼動できる0.8Vの正確な検知の実現によって長時間再生を可能にしました。

ページャー(無線呼出用携帯受信機)
電池1本で動作する昇圧DC/DCコンバータXC6373/XC6383シリーズが採用されました。

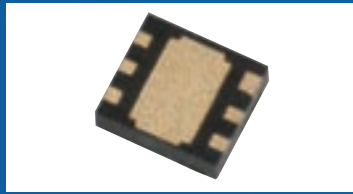
こうしてトレックスの「強み」は培われた

独自の技術で世界トップクラスの小型・省電力電源ICを開発し、
さらに成長に向けたリソースの充実を図ってきました。

車載製品への取り組み

車載機器へ向けた電源ICの取り組みは、カーオーディオやカーナビといったカーインフォテイメント分野へ製品を販売したことから始まりました。培ったノウハウを活かし、自動運転に伴うセンサーやカメラ等のユニット、ボディ系へ販売領域を拡大するとともに、必要とされる国際基準を取得し、関西技術センターでの技術サポート、名古屋営業所での顧客対応、フェニテックとのシナジー効果を通して、お客様から信頼と安心を頂けるようつとめてまいります。

電気機器の小型化、軽量化を実現



「XCL」は、既存のDC/DCコンバータと同様の大きさで、コイルと一体化させた製品です。コイルとの一体化により、お客様の製品の電源制御に必要な部品点数の削減と、部品配置に必要な面積の低減に貢献、様々な電気機器の小型化、軽量化が実現可能となりました。

高品質水準にも対応できる安定生産体制

国内で唯一前工程製造受託サービスの提供を専業としているフェニテックセミコンダクター㈱は、自社が開発したオリジナル製品やお客様の半導体製品を少量多品種で生産しております。車載向け製品を生産するにあたり必要となる各種認定を取得しており、生産コストを抑えながらお客様の細かいリクエストへ対応可能となりました。

2017年ダイジェスト

当社の「強み」を活かして、
当期は様々な結果を残すことができました。

東京証券取引所市場 第一部指定承認

2014年にジャスダック市場に上場してから、株主の皆様や従業員、取引先などすべてのステークホルダーのご支援により、4年弱で東京証券取引所市場第一部に上場することができました。
今後も、より一層企業価値を向上できるよう、中期経営計画の実現を目指すとともに、品格をもった経営を進めていきたいと考えています。

過去最高の売上高・営業利益・経常利益を達成

計画以上にフェニテックの販売が好調だったほか、トレックスで注力している車載・産業機器の堅調な進捗が牽引し、過去最高の売上高・営業利益・経常利益を達成することができました。
また、車載・産業機器といった付加価値の高い市場で販売することで利益率が向上し利益体質が改善されました。

第7回ものづくり日本大賞 製品・技術部門

優れた画期的な製品や部品などの開発・実用化を実現化した方々を顕彰する経済産業省主催「第7回ものづくり日本大賞」製品・技術部門において、当社のXC9265シリーズ※が「優秀賞」を受賞しました。
今後も更なる技術イノベーションを追求していきたいと考えています。

※新規低消費回路開発により当社従来製品から30分の1程度のICの自己消費電流を実現。

トレックス＋フェニテックのシナジーを発揮し、重点市場でシェアを拡大していきます。

代表取締役 社長執行役員 **芝宮 孝司**

Q 東証一部指定について、今の想いをお聞かせください。

A **企業価値をさらに拡大し、より大きな社会的貢献を果たしてまいります。**

当社は、2014年4月の東京証券取引所JASDAQ上場から1年半後、2015年10月に同市場第二部に上場し、さらに2年5ヵ月を経て、このたび念願の同市場一部の指定を受けました。株主の皆様をはじめ、ここに至るまでの成長と発展を支えていただいた全てのステークホルダーの皆様に心より感謝申し上げます。

今後は、社員・役員一同これまで以上に身を引き締めて行動し、一部上場企業に求められる責任と品格を保持してまいります。そして、企業価値のさらなる拡大とともに、より大きな社会的貢献を果たしていくことで、皆様からのご期待に応え、ご支援に報いる所存です。

なお今回、東証一部指定と並行して、新株式発行等による資金調達を実施し、フェニテックセミコンダクター株式会社（以下、フェニテック）の増資を引き受ける形で、グループの財務基盤の強化を図りました。これからの成長戦略において要となる同社生産体制の増強に調達資金を充て、将来の飛躍に向けてグループの事業基盤を確立していく考えです。

当社グループの新たなステージは、3ヵ年の中期経営計画の始動で幕を開けました。持続的に成長・発展する企業を実現すべく、本計画を着実に遂行し、未来を拓いてまいります。

為替レートの推移

	2017年3月期	**2018年3月期**
平均為替レート（1米ドル）	108.9円	**110.8円**

Q 第23期を振り返り、営業状況についてお聞かせください。

A **フェニテックの販売増が業績を牽引し、予想を上回る成果となりました。**

当期は、半導体・電子部品関連市場の全般的な好況を背景に、特にフェニテックの販売増が業績を牽引し、期初の予想を上回る増収・増益となりました。ただし、親会社株主に帰属する当期純利益は、前期において負ののれん発生益を計上した反動により減益となっています。

フェニテックは、ディスクリートの売上が大きく伸長し、国内販売・海外販売ともに好調に推移しました。地域別では、特に北米における売上高が拡大し、フェニテック全体の4割弱を占めるまでになりました。利益面においては、増収効果に加え、稼働率の上昇により収益性が向上し、増益に寄与しました。

一方、フェニテックを除く旧トレックスグループ(以下、トレックス)は、日本国内の販売がやや減少し、アプリケーション別では民製品向けが低調となったことから、売上高はほぼ前期並みにとどまりました。しかしその中でも、重点分野と位置付ける車載機器向けおよび産業機器向けは、前期に立ち上げた関西技術センターの貢献もあり順調に拡大しました。さらに2017年6月に開設した名古屋営業所においては商談件数が4倍に増加しており、今後も更なる拡大が見込まれます。これら重点分野の売上増は、粗利率の改善にもつながりましたが、研究開発費等の増加により、トレックスの営業利益は減益となりました。

Q 中期経営計画の始動にあたり、今後の展開をご説明ください。

A **売上高300億円の達成を目指し、三つの重点戦略を推進していきます。**

当社グループは、第24期(2019年3月期)から第26期(2021年3月期)までを期間とする3ヵ年の中期経営計画をスタートしました。本計画は、最終年度の連結業績における「売上高300億円」「営業利益30億円(営業利益率10%)」の達成を目標に掲げ、重点戦略として「重点市場でのシェア向上」「ディスクリートビジネスの確立」「コーポレートガバナンス・IRの強化」の三つを推進していきます。

今後3年間の事業環境を展望すると、半導体・電子部品関連市場は、総じて現在の好調を維持するものと見込まれます。その中でも、特に車載機器向け分野は、自動車のEV化や自動運転化の進展に伴い、使用される電子部品の点数が飛躍的に増大し、この3年間で需要が拡大すると予測されています。また産業界の生産現場においても、設備の自動化やAI・IoTの導入が進み、やはり半導体・電子部品の需要増加につながっていくと見られます。

こうした市場展望を前提として、本計画では「重点市場でのシェア向上」を目指し、車載機器向けおよび産業機器向けによる売上高を現状の53%前後から6割弱に高め、安定基盤として確立したいと考えています。その上で、IoT分野に向けた超薄型・小型低消費電流製品を拡充し、市場の裾野を拡げていきます。

車載機器向けの拡大においては、もう一つの重点戦略である「ディスクリートビジネスの確立」もカギとなります。フェニテックの強みである生産力を活かし、車載機器メーカーが要求するディスクリートの安定供給に対応するとともに、トレックスとフェニテックの共同開発により、車載機器メーカーのニーズに合わせてカスタマイズしたディスクリートの提供を手掛けていく方針です。

当社グループ事業においては、為替変動や材料費の高騰によるリスクが想定されますが、ここに挙げた重点市場へのシフトとディスクリートの強化により収益力を向上させ、それらのリスクによる影響をカバーしていきます。

一方、内部施策としての重点戦略である「コーポレートガバナンス・IRの強化」については、取締役会の実効性をさらに高め、健全かつ効率的なグループ経営体制を構築しつつ、今後は海外IR活動にも注力していく予定です。

Q 第24期の見通しと取り組みについてお聞かせください。

A **増収ながら営業利益・経常利益は一時的に減益に転じる見通しです。**

第24期は、車載機器向けおよび産業機器向けのシェア拡大と、ディスクリートの販売増加により、引き続き増収を確保する計画です。しかし現在、高収益体質の構築に向けてフェニテックの本社工場と第一工場の統合を進めており、その設備投資および経費の増加に加え、材料費の高騰による売上原価の上昇が予想されることから、営業利益・経常利益については、一時的に減益に転じる見通しです。

第24期の取り組みにおいては、前述の重点戦略にもとづき、重点市場＝高収益分野でのシェアを向上すべく、車載向け・産業機器向け電源ICの製品ラインナップを拡大し、同時に中高耐圧パワーデバイスの開発・量産化を手掛けていきます。また、トレックス・フェニテックのシナジー実現に傾注し、車載機器メーカー等との協業関係の強化を図るとともに、フェニテックのノウハウを活用した幅広い製品をリリースし、鹿児島工場の有効活用や生産現場の効率化についても推進していきます。

Q 株主・投資家の皆様にお伝えしたいメッセージをお願いします。

A **0から1を生み出す＝世の中にないものを創造していく企業を目指します。**

今回の期末配当は、当初予定の普通配当1株当たり16円に加え、東証一部指定を記念し、株主の皆様への感謝を込めて、同2円の記念配当を実施させていただきました。これにより年間配当額は、同16円の中間配当と合わせて、同34円（前期比2円増配）となりました。

第24期の年間配当額は、1株当たり36円（中間・期末とも同18円）を予定しています。今後も利益還元については、連結配当性向20％以上を安定的に維持し、さらに株主資本配当率（DOE）

3％程度を目安として還元の拡充を目指す基本方針を継続してまいります。

なお当社グループは、このたび「CSR活動方針」を明文化し、環境・品質・社会への取り組みと組織統治のあり方を具体的に示しました。事業活動を通じて地球環境の保全と豊かな社会づくりに貢献していく企業として、CSR活動への意識をあらためて全社に浸透させると同時に、ステークホルダーの皆様に向けて企業姿勢を明確にお伝えすることが目的です。

また今年度から、トレックスグループとしてのロゴを作成し、0から1を生み出す＝世の中にないものを創造していく私たちのミッションを新たなデザインに表現しました。

当社グループのさらなる成長・発展にご期待いただき、これからも長期的なご支援を賜りますようお願い申し上げます。

トレックスグループ　新ロゴのご紹介

TOIREX

0（無）から考え1（有）を生み出し付加価値を求めていくという旧ロゴの考えをベースに、右上に流れる線で世界の中でトレックスグループが成長、発展していく姿を表現しています。

透明性と説明責任を果たし、また法令を遵守し、誠実な経営を行います。

企業理念

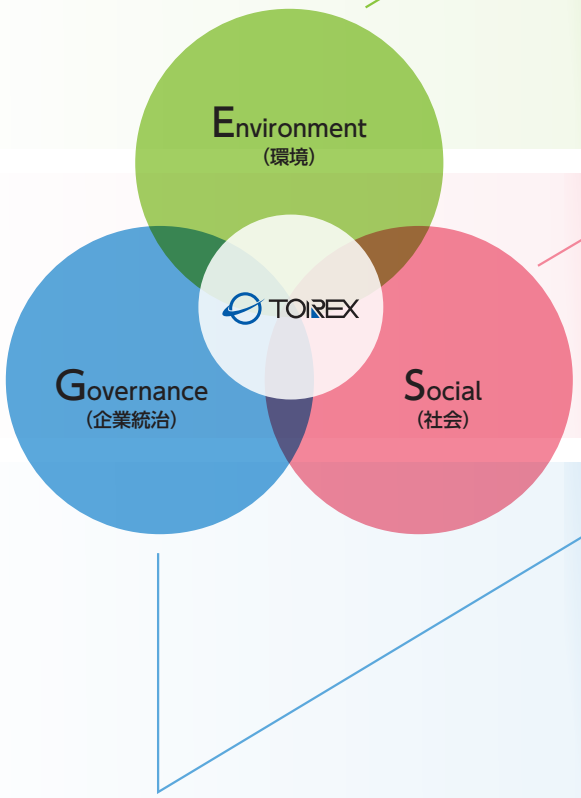
常に豊かな知性と感性を磨き、市場に適応した価値ある製品を創出し、豊かな社会の実現と地球環境の保全に貢献するとともに、私たちの事業に携わるすべての人々が共に繁栄すること。

CSR活動方針

環境に配慮した製品の開発、安定的な供給、サービスの向上につとめる。ステークホルダーとの相互理解を深め、満足度向上を目指し社会的責任を果たす。

CSR活動推進

社長を委員長とする「CSR活動推進委員会」を設け、CSR推進体制を構築。各部門に「CSR担当者」を設け従業員に対するCSR推進、浸透活動に取り組んでいます。



Environment(環境)

環境への取り組み

- **有害化学物質規制への対応**
  ハロゲン、アンチモンフリー対応／RoHS指令対応／REACH規則対応／ソニーグリーンパートナー／難燃性規格対応
- **低消費電源ICの開発**
  地球環境保護の理念にもとづき、高効率・高性能な電源ICを提供しています。低消費電流の電源用ICが、各種携帯機器の省エネルギー・高効率を実現
- **ISO14001を取得**
  国際的な環境管理規格であるISO14001を認証取得

品質への取り組み

- **品質保証体系**
  品質マネジメントシステムを継続的に改善
- **ISO9001を取得**
  当社が提供している製品は、品質マネジメントシステムの国際規格であるISO9001を取得した協力工場で製造
- **サプライチェーンBCPの推進**
  安定した製品供給という責務を果たすため、協力工場を含めた国内外の複数の生産拠点で展開

Social(社会)

株主・投資家対応

- **積極的な情報開示**
  株主・投資家対応に関する取り組みについて⇒IRサイト

サプライヤー対応

- 調達活動方針
- 紛争鉱物対応

地域社会

- 教育機関へのサンプル提供
- フードバンク活動

従業員への取り組み

- ワークライフバランスの推進
- 健康経営
- 人材育成

Governance(企業統治)

組織統治

- **コーポレートガバナンス**
  トレックスグループでは、継続的な企業価値の向上を達成するため、コーポレートガバナンスを経営上の重要課題と位置づけています。そのためには、ステークホルダーに対して透明性と説明責任を果たし、また法令を遵守し、道徳・企業行動基準に基づいた誠実な経営を行うことを基本としており、コーポレートガバナンスに関する当社の基本的な考え方、枠組み及び運営指針を『コーポレートガバナンス・ガイドライン』として公表しています。
- **内部統制システム**
  トレックスグループではコーポレートガバナンスの充実と強化を目的とし、社長を委員長とするリスクコンプライアンス委員会を設置しています。コンプライアンス経営宣言を実現させるための規範等を明文化しています。
- **トレックス企業行動規準**
  企業が社会の一員であることを深く認識し、誠実かつ品格のある公正な事業を展開し、「良き企業市民」として豊かな社会の実現のために、トレックス企業行動規準を定めています。

連結財務ハイライト

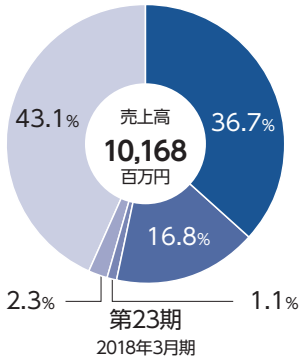
		第20期	第21期	第22期	**第23期**
		2015年3月期	2016年3月期	2017年3月期	**2018年3月期**
売上高	(千円)	9,971,975	10,621,282	21,559,622	**23,996,944**
営業利益	(千円)	1,350,203	1,139,901	1,251,098	**2,212,324**
売上高営業利益率	(%)	13.5	10.7	5.8	**9.2**
経常利益	(千円)	1,678,928	970,553	905,707	**1,998,187**
親会社株主に帰属する当期純利益	(千円)	1,247,728	580,401	2,930,551	**902,176**
総資産額	(千円)	13,170,991	12,972,871	25,209,563	**27,995,000**
純資産額	(千円)	10,889,371	10,928,988	15,597,571	**19,085,463**
自己資本比率	(%)	82.3	83.9	45.3	**51.8**
自己資本利益率（ROE）	(%)	13.3	5.3	26.3	**7.0**
営業活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	1,736,281	1,302,563	1,635,310	**2,335,353**
投資活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	△1,412,687	△169,423	2,714,677	**△697,406**
財務活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	290,302	△422,349	△994,266	**1,151,752**
現金及び現金同等物の期末残高	(千円)	6,478,864	6,855,452	9,714,789	**12,280,327**
1株当たり当期純利益金額	(円)	118.10	54.59	308.77	**99.44**
1株当たり純資産額	(円)	1,020.86	1,022.30	1,267.65	**1,338.74**
1株当たり配当額	(円)	110	32	32	**34**
配当性向	(%)	23.3	58.6	10.7	**34.2**

1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。　2. 2015年４月１日付で株式１株につき４株の株式分割を行っております。2015年３月期の１株当たり指標（配当は除く）については連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しております。

TOREX

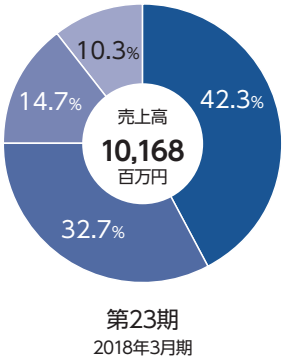
アプリケーション別売上高

■産業機器 ■車載機器 ■医療機器 ■ウェアラブル機器 ■その他



地域別売上高

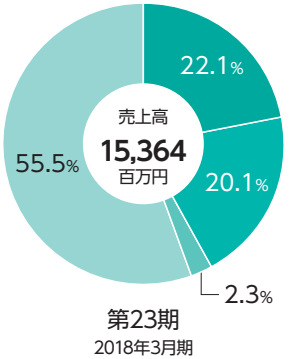
■日本 ■アジア ■欧州 ■北米



Phenitec
For Further Growth Together

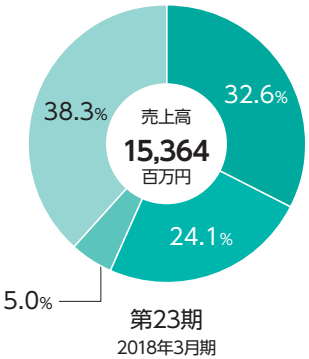
アプリケーション別売上高（参考値）

■産業機器 ■車載機器 ■医療機器 ■ウェアラブル機器 ■その他



地域別売上高

■日本 ■アジア ■欧州 ■北米



※ トレックス・セミコンダクター向けの内部取引分を含みます。

■ 会社情報 (2018年3月31日現在)

会社概要

社　　名	トレックス・セミコンダクター株式会社
所 在 地	東京都中央区新川1-24-1 ユニゾ新川永代通りビル3F
設　　立	平成7年(1995年)3月
資 本 金	29億6,793万円
事業内容	1. 半導体デバイスの開発、設計製造 2. 半導体デバイスの販売
従業員数	連結／982名　個別／159名

役員一覧 (2018年6月26日現在)

■ 取締役（監査等委員である取締役を除く）

代表取締役 会長執行役員	藤阪知之（ふじさかともゆき）
代表取締役 社長執行役員	芝宮孝司（しばみやこうじ）
取締役 常務執行役員	木村岳史（きむらたけし）
取締役 執行役員	日笠基（ひかさもとい）
取締役	谷英昭（たにひであき）

■ 監査等委員である取締役

常勤監査等委員(社外)	池田耕太郎（いけだこうたろう）
監査等委員(社外)	小松熙（こまつひろし）
監査等委員(社外)	川俣尚高（かわまたなおたか）
監査等委員(社外)	清水満昭（しみずみつあき）

■ 株式情報 (2018年3月31日現在)

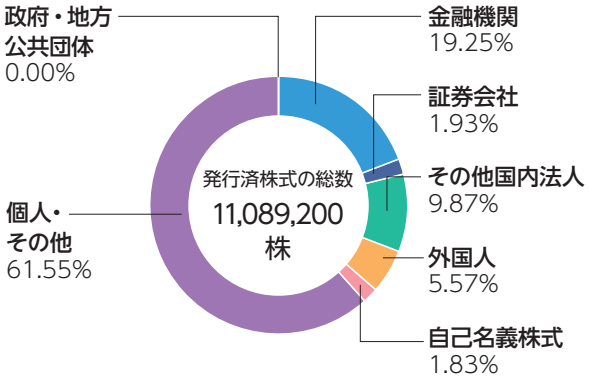
株式の状況

発行可能株式総数..... 36,673,600 株

発行済株式の総数..... 11,089,200 株

株主数 ..... 5,306 名

所有者別株式分布



大株主（上位 10 名）

株主名	所有株式数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	897	8.25
藤阪　知之	498	4.58
尾崎　正晴	479	4.40
アルス株式会社	452	4.15
株式会社中国銀行	440	4.04
芝宮　孝司	290	2.67
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	288	2.65
資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口)	189	1.74
仲　剛志	162	1.49
難波　善三郎	134	1.23

1. 当社は、自己株式を203,068株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎事業年度終了後3ヶ月以内
株主確定基準日	3月31日
期末配当金株主確定日	3月31日
中間配当金株主確定日	9月30日
単元株式数	100株
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内 一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
事務取扱場所	東京都千代田区丸の内 一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

郵便物送付先・連絡先	(郵便物送付先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8番4号 (連絡先) 0120-782-031
公告方法	当社の公告方法は、電子公告としております。 ただし事故その他やむを得ない事由により電子公告をすることができないときは、日本経済新聞に掲載しております。 当社の公告掲載URLは次のとおりです。 https://www.torex.co.jp/

About トレックス

アバウト・トレックス　Vol.8

TOREXにまつわる色々なことをご紹介します。

フェニテック セミコンダクター㈱ 創立50周年記念行事で新しいロゴをお披露目

2018年4月21日、フェニテックセミコンダクターの本社がある岡山県井原市にて50周年行事を開催し、記念式典・祝賀会では来賓、ＯＢ、役員、社員の総勢７００名近い方々にご参列いただきました。記念講演会では、バルセロナオリンピックで銀メダル、アトランタオリンピックで銅メダルを獲得された岡山県出身の有森裕子さんに『よろこびを力に』というテーマで行っていただくなど、盛大なイベントとなりました。また、これを機に新しいロゴを作成いたしましたので、ご紹介いたします。

５０周年記念

５０周年であることと、”０”は半導体製品ウェハー及び地球を表しワールドワイドで活躍する企業イメージを、そして５０から伸びる線はさらに成長するイメージを表現しています。

フェニテックセミコンダクター

Phenitec の頭文字「Ｐ」は、「ワールドワイド」と「ウエハ」をイメージし、世界から高く評価される半導体企業を、中ほどにある「ｉ」はエンジニアである「人」を表し、エンジニアが活躍する企業を表現しています。
技術の会社をイメージして全体的に線を細めにし文字のエッジを効かせ、カラーは上質・品格のある色合いで、一つ上の品質・技術力の高さ、常に上のもの創りを目指す想いの色（フェニテックバイオレット）を使用しました。
社名ロゴの下にありますキャッチフレーズ” For Further Growth Together”は、「さらなる飛躍を目指して」との想いを込めております。

当社の最新情報はWEBサイトでご覧いただけます。

トレックス

https://www.torex.co.jp/

トップページ

IR情報　https://ir.torex.co.jp

トレックス・セミコンダクター株式会社
〒104-0033　東京都中央区新川1-24-1
ユニゾ新川永代通りビル3F
TEL　(03)6222-2851

UD FONT
見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

VEGETABLE OIL INK
環境に配慮した植物油インキを使用しています。

FSC www.fsc.org ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C022915